

**第五次総合計画後期基本計画策定
第4回教育・スポーツ分科会 議事概要**

- 1 日 時 令和3(2021)年6月21日(月) 午後1時から午後2時まで
- 2 場 所 柏崎市役所 多目的室
- 3 出席者
 - (1) 委 員 三嶋崇史会長、笹川陽介副会長、五十嵐健也委員、大信ひとみ委員、岡村美奈子委員、近藤多計夫委員、佐々木洋輔委員、遊佐雅美委員
 - (2) 庁 内 教育部長、教育総務課長、学校教育課長、文化・生涯学習課長、スポーツ振興課長、図書館長、博物館長、子育て支援課長
 - (3) 事務局 企画政策課長、同課長代理、企画係員

4 会議資料

【事前配布】

資料1 令和3(2021)年度 柏崎市第五次総合計画進行管理報告書(案)
(令和2(2020)年度実績分)～第4章～

資料2 柏崎市第五次総合計画前期基本計画 主要施策の基本方向一覧
●第五次総合計画基本構想・前期基本計画(冊子)

【当日配布】

資料3 第4回分科会席次表

5 会議概要

進行管理報告書の構成と評価方法について、事務局が説明した後、主要施策ごとに、各担当課長が「主な取組と成果」「課題と今後の展開」について説明し、質疑・応答を行った。

発 言 者	発 言 概 要
-------	---------

第1節 主要施策1 知徳体のバランスの取れた教育を進める

- | | |
|-------------|---|
| 委 員 | (報告書3ページ)「健やかな体をはぐくむ教育の推進」において、コロナ禍で運動できない子どもが多い中、体力テストの向上や評価が気になるところだが、体力維持のための特別な取組をされているということと理解した。文中にある「児童生徒の実態に合った特色のある体力向上の取組」について、学校単位で様々であると思うが、詳細をお聞きしたい。 |
| 学 校 教 育 課 長 | 体力テストは、50m走、ソフトボールの遠投、持久走など、項目ごとに学年・男女別で結果が表され、各学校の傾向が把握できる。その結果から、劣っている項目について、力を入れることとしている。体育の授業の工夫や、休み時間の遊びの中に強化する項目を取り入れたり、運動会の種目を工夫するなどにより、子どもたちの中で少しずつ意識も体力も変化していくような取組を行っている。 |
| 委 員 | 子どもたちが楽しみながら、体力の向上につながるよう取り組まれていることがわかった。 |
| 委 員 | (報告書2ページ)「豊かな心をはぐくむ教育の推進」について、うちの子どもが、オンラインによるニューヨークの社会見学に参加し、非常に喜んでいて、とても良い経験だと感じたので、時期を変えるなどして回数を増やすことを検討していただければと思う。 |
| 文化・生涯学習課長 | コロナ禍で、たまたまニューヨーク在住の方との縁で実施することができたが、非常に良い事業であった。関係者をはじめ、現地との調整など条件が整えば実施できるので、機会を捉えて実施できればと思う。 |

- 委員 海外でなくとも、市内でも県内でも良いのではないか。いろいろな商売をされたり、活動を外に向けて発信されている方などがたくさんいらっしゃると思うので、その成功の経緯や子どもどもの時の話など、幾らでも方法はあるので、そういった目線で実施してほしい。
- 文化・生涯学習課長 貴重な意見ありがたい。承知した。
- 委員 (報告書2ページ)「豊かな心をはぐくむ教育の推進」について、柏崎の子どもたちは、芸術に触れる機会が少ないように思われる。アルフォーレには大変素晴らしい設備があるため、是非、生の音楽や芸術に触れる機会をもっと増やしてほしい。また、コロナ禍で、ホールを使って合唱コンクールを行ったところ、実際に歌った子どもたちが、学校の体育館と違ってとても気持ちよかったと言っていた。せっかくある素晴らしいホールを、もっと教育の現場で活用すべきではないかと感じている。
- 教育部長 今はコロナ禍でいろいろと制限せざるを得ない状況下にあるが、コロナ収束後は、アルフォーレの利用に努めていきたい。
- 委員 今の話に関連するが、昨年度、勤務先である松浜中学校では、合唱コンクールを体育館で開催しようとしたが、コロナ禍にあって、キャパシティの関係からアルフォーレで実施した。これまで経験がなく、初めてで不安もあったが、結果的には生徒たちの自信につながり良い経験となった。アルフォーレという良い施設があるのだから、そういった機会を作ることは良いことだと感じた。ただし、松浜中学校の規模からすると(他の大きい学校があることを考えると)、アルフォーレの使用をやや遠慮するような感じもある。このため、時間帯によるすみ分けなどして、小さい規模の学校も活用できるように工夫し、生徒たちに良い経験の機会を考えていただければと思う。
- 委員 報告書1ページの「学校に行くのが楽しい」と感じている児童生徒の割合という目標指標について、こういった質問項目なのか。また、選択肢は「はい」か「いいえ」の二択なのか、あるいは複数あるものなのか。
- 学校教育課長 すべての学校を確認したわけではないが、学校評価のアンケートを行う際には、一般的には四択で設定している。よって、肯定的回答は、そのうち2つを合計した値となる。
- 委員 目標値は中学校3年生で90%となっているが、残り10%はそうではない。そういう子どもたちへのアプローチや施策はあるのか。
- 学校教育課長 アンケートは記名式で実施し、実態を把握している。このため、心配な児童生徒に対しては、定期的にアンケートに基づく教育相談を行っており、担任が働きかけを行っている。
- 委員 学校現場では、先生方が協力されて、丁寧に対応していただいていることは、すごく感じている。文部科学省によると、不登校は増加しており、令和元年度、全国で23万人、うち13万人が中学生という調査結果が出ている。また、日本財団によると、不登校傾向にある中学生は33万人で、この数値は全国の小中学生の10%にあたる。この(本市の)アンケート結果からも、10%以上の生徒が、学校に行くのが楽しいと感じていないとうことである。学校に行くのが楽しいとする子どもどもの数を目指値にするのではなく、そうでない子どもの存在を認めて、多様な教育の方法を認めるべきではないかと思う。教育=(イコール)学校教育ではなく、フリースクール、寺小屋、ホームスクールなど、学校に行かない選択肢もあるよということ子どもたちに発信していただきたいと思う。柏崎市が、オルタナティブ教育を認めてくれるまちになったら、ほかの都市で馴染めない子どもたちが来るのではないか。それが、子育てしやすいまちの一つになるのではないか。難

しいジャッジではあるが、学校へ行けない子どもたちの話題がもう少し出てくれればいいと思う。

学校教育課長 貴重な意見ありがたい。小・中学校における不登校の取組は二つあり、一つは不登校を生まない・未然に防ぐために、学校に行くことが楽しいと感じるような授業や行事、教育活動を充実させることを重視した取組である。もう一つは、不登校の傾向が出てきた場合の取組である。いろんな子どもがいるので、そういった子どもたちに対しては、学校に来ることを強制はしておらず、学校以外のフリースクールなどを認める方向で進めている。国も同様である。また、ふれあいルームに通っている小中学生もいる。そこでは、勉強をするのではなく、話したり遊んだりする中で様々な適応力を付け、最終的には中学校を卒業して進路を決める力を付けるという取組をしている。不登校で自宅にいる子どもに対しては、GIGA スクール構想によるタブレットの有効活用により、対応している学校もある。学校保障といった点でも、少しずつその子に合った対応に取り組んでいるところである。

委員 子どもたちのケアについて、本当によくやっていただいているありがたい。学校に行かない子どもたちの受入れ側の充実も課題である。フリースクールをやりたいたいと思っても、一番は経済面の問題があり、その点で行政との連携があると良いと思う。また、公に認められた形でやれるとすごく良いと思う。

委員 関連して、学校に行くのが楽しい割合の目標値が 90%であるが、残る 10%を子どもの数にすると結構な数になるのではないか。その理由を明確にすることが大切だと思うが、アンケートでそれが分かるものなのか。

学校教育課長 委員 アンケートでは、理由までは把握していないが、ある程度は分かるケースもある。10%の子どもたちの理由が分かれば、その傾向をつかみ対応もできるのではないかと思う。今、現場で個別に対応をしても、そこで止まっているのでは、変わっていかないのではないか。また、毎年アンケートを実施しているので、その回答者は全て変わる。(報告書 1 ページ下段のグラフでは) 同じ項目の小学 6 年生の値が、3年後の中学 3 年生の値にあたる。そう見ると、いずれも中学 3 年生の方が減っており、その分、3年後は楽しくなくなっている子どもがいると考えられる。残りは 10%強となるが、この 10%強の子どもたちを変えるため、アンケートの工夫ができないものかと思う。

委員 今回の委員の意見に加えて、フリースクールの先生と通っている子どもたちの意見も聞けないものか。また、フリースクールは経済的に余裕のある人が利用している可能性もあるため、フリースクールをもう少し開かれたもの、もしくは市が援助できるものがあつたらよいと思う。

学校教育課長 細かく分析していただき感謝するとともに、参考にさせていただく。学校が楽しいと感じる 90%の子どもたちと、残る 10%の子どもたちの理由は、それぞれ様々な背景があり、学校現場で担任や教職員で深く追求する必要があると痛感した。その上で、楽しいと感じていない 10%の子どもたちにもっと焦点を当てて、具体的な対策を示すことができればよいと思う。なお、(報告書 1 ページの) 目標指標 3 番と 4 番の目標値を見ていただくと、小学 6 年生は 95%、中学 3 年生は 90%で、目標値が異なる。これは学習や部活動、進路などを始め思春期の精神的な不安定さから、中学生が下がる傾向があることを背景としている。

委員 フリースクールについては、調査しているところであるが、ふれあいルームは誰でも通うことができ負担はない。一方、フリースクールはかなりの負担がある。このため、ふれあいルームにもっと通えるよう環境を整備していければよいと思う。学校が楽しくなかった子が楽しくなったからいいというだけではなく、小学校から中学校の 9 年間で、子どもたちは楽しい時期と楽しくない時期の繰り返しで日

常が成り立っていることを踏まえるべきである。このため、全体の傾向で対策を考えることは重要ではあるが、今、その子に何が起きているのかといった個別の悩みに対応して行くことも大事なことだ。

第1節 主要施策2 地域ぐるみで子どもや若者を育てる

質疑・意見なし

第1節 主要施策3 教育環境を充実させる

委員 (報告書6ページ)「教職員のICT活用研修の受講者数」という目標指標がある。教職員のスキル向上は最もだが、普段非常に忙しい中で更にICTの研修に行かなければならないのは大変だ。学校に限ったことではないが、年齢が上がるにつれて新たに学ぶことは大変であり、若い教職員の負担が増しているのではないかと思う。こうしたことから、学校へのICT専門家の派遣を検討できないか。学校現場の現状についてもお聞きしたい。

委員 ICT機器は、バタバタと入ってきたというのが正直なところである。一方で、時間のない中で、教育委員会は良く入れてくれたものだとも思っている。中学生は、教職員より早く、あっという間に浸透したが、その分の危機管理の必要性を感じている。また、若手職員の負担は増しており、学校間に格差も生じつつある。対応能力がある職員は、各校に1人はいるが、2～4人目がいるかどうかで差が出てくる。小学校と中学校の差もあるだろう。こういった現状や、何かあったときの相談先として、ICT支援員の拡充など、行政の支援があれば非常にありがたい。

会長 ICT活用の授業が進んでいるが、研修の受講者数はどのようなカウント方法になっているのか、その点も併せてお聞きしたい。

学校教育課長 まず、受講者数について、令和2年度の値が低いのは、新型コロナウイルス感染症により大人数での実施ができなかったことによるものである。また、研修は、様々な対象者に対して必要なテーマについて実施している。今年度は、模範的な授業を公開し、教職員で共有する機会を検討している。ベテランと若手がいる中、厳しいところはあるが、全職員にスキルアップを図っているところだ。

教育総務課長 ICT支援員は、現在、全市で2人手配し、この春から31校に対して機能している。決して十分ではないとは感じているが、各校からの問い合わせに順次対応している。今年度の状況を見ながら検証し、次年度以降について判断していく。

委員 教職員は、GIGAスクール関係も含めて非常に多忙となってきたため、全小中学校に留守番電話機能付き電話を設置し、時間外の電話対応をなくするようにしている。また、今年度、職員に早く帰るくせをつけさせるようにするため、モデル10校で、戸締まりや施錠業務を民間委託し、教職員の多忙化の解消につながる取組も検討して行っている。

委員 新潟産業大学で教鞭を執っており、オンライン授業を行っている。出欠や成績の管理など、様々な分野でオンラインを取り入れる中で、研修の機会が多くなってきたが、若手とベテランの差は結構ある。一律に同じ内容の研修を受講すると、ベテランはもっとゆっくり時間をかけて本当に知りたいことを学びたいが、若手はその時間分で、ICT以外のことについて学びたいといった状況があるのではないかと。受講者のレベルに合わせて、分けて研修を実施したらよいのではないかとと思う。

第2節 主要施策1 学びの機会を充実させる

質疑・意見なし

第2節 主要施策2 家庭・地域の教育力を高め、共助社会を形成する

質疑・意見なし

第3節 主要施策1 スポーツによる地域づくりや生きがいを進める

質疑・意見なし

第3節 主要施策2 全国や世界に通用する競技者を育てる

- 委員 知り合いのスポーツインストラクターに、陸上競技を行っている長男のストレッチと筋トレについて相談したところ、それまで行っていた内容では成長世代には向かないということで、違う方法を紹介され、その後記録が伸びた。そのことから、専門性のある、今の時代の成長世代に合った指導のできる人が必要だと感じた。
- スポーツ振興課長 今の話は、どの競技についても課題の一つだと思う。スポーツ協会と協力し指導者研修を実施しているが、集まりが悪い場合もある。また、昔のままの教え方の指導者もいる。その点については、大きな課題と捉えており、全体的な底上げや意識の改善に取り組んでいきたい。
- 委員 同じく子どもが陸上競技を行っている。市陸協が行う陸上教室が午後2時からの開始で、非常に暑い時間帯であり、考慮してもらいたい。
- 委員 指導者は学ぶことを継続する必要がある、指導者の指導者が必要である。また、中央（東京など）でやるとともに柏崎市でもやるのが良いと思う。一方、指導者の悩みを指導者同士で共有する場があってよい。
- 委員 「全国や世界に通用する競技者を育てる」とあるが、せっかく育てても、優秀な指導者や選手は取り合いとなっており、流出問題に早めに取り組む必要がある。
- 委員 指導者の育成はかなり重要だと感じている。県内には指導者の学ぶ機会があまりなく、関東だとレベルの高い指導者がたくさんいるというのが現状だ。また、柏崎市では野球、陸上、競泳など指導員の交流はほぼないのが現状だ。昨年度、スポーツ協会の指導員研修で、いろんな競技の指導者と共に受講し、目からうろこと思うような話や、小・中学生や大人のけがの予防などについての話を聞いた。しかし、その研修はスポーツ協会に加盟している団体の方しか参加できず、参加者が非常に少なかった。このため、指導員、保護者も含めてもっと多くの方が参加できる仕組みを検討されたい。また、交流の場を増やしていただくとともに、リハビリだけでなく食の関係や、メンテナンス部分の強化も求められるので、全てのことが吸収できるような環境づくりをお願いしたい。
- 委員 体力測定会（プレゴールデンエイジチャレンジ）が昨日、市民プラザで開催され、多くの子どもが参加していた。研修や測定会がもっと広まって、たくさんの方が参加できる仕組みがあるとよい。
- 会長 誰でも参加でき、学ぶ仕組みがあるとよい。
- スポーツ振興課長 御意見を踏まえ、取り組んでいく。

全体を通じて

- 委員 先日、小学校でコロナ感染の児童が出た。その後、登校してきた当該児童に対して、子どもたちは何事もなく普通に受け入れた。しかし、周りの親が騒ぎ、その小学校の親たちの一部にプレッシャーをかけたということがあった。過去に教育を受けた大人が、つまらないことをやっている。子育てとは、子どもだけではなく、親育て・親教育も必要であり、こうした文言も子育てとともに入れるべきだ。よい教育を受けている子どもたちから、親たちに発信できるような仕組みがあると良い。
- 会長 ととても大事なことだ。
- 教育部長 市としてはコロナ感染が発生した場合は、防災行政無線で配慮すべき事項を発信しているが、こういう事案があった場合は、市でどういった対応ができるかということ

難しいところがある。PTA 連合会から各学校の PTA 会長を通じて御指導いただくのが良いのかと思う。

委員 コロナに限らず、大人が学ぶ教育の場が必要になってきている。日常の変化が大きい中で、子どもも大人もいろいろな悩みを抱えている。大人も親も、一緒に学ぶことが必要だ。

委員 LGBT、コロナ、誹謗中傷、うわさなど様々な問題が絶えない中、子どもたちは一生懸命学んでいる。大人も親も、一緒になって学ぶべきだと思う。

6 その他

今後の開催日時 第5回 8月5日(木) 10:00~

第6回 8月25日(水) 10:00~